

成 果 報 告 書

【令和3年度教育改革推進事業経費】 b. 教育課程改善・試行プロジェクト

所属部局	産学連携イノベーションセンター	代表者氏名	恵下 隆
事項名	アントレプレナーシップ教育プログラム構築のための調査検証事業		
当初計画に対する目標達成率	70 %	事業の終了時期	令和 4 年 3 月
予算配分総額	571千円	経費使用総額	571千円

【事業の成果】※具体的に記入してください。

①学外起業家との交流、特に和歌山県内の企業経営者との交流の場を实践

- ・本学卒業生および和歌山圏域で起業している経営者および幹部、事業家など約30名と起業支援についてヒアリングを行い、アントレプレナーシップ教育における学外支援サポーターとしての受援体制の整備ができた。
- ・本学で開催した「香村賞ビジネスプラン」コンテストの審査時間を利用して、二人の起業家を招き学生との交流を図った。招待した起業家は、R3年4月に合同会社「ギンエン」を設立した東詩歩氏（観光学部4年生）、R2年度卒業後、「R3年度わかやま地域課題解決型起業支援補助金」に採択され「ぐらーじゅ」を創業した松原主明氏の2名。
- ・和歌山県内で起業した卒業生起業家と学生とのオンライン交流会を実施した（当初は、和歌山市内でのリアル開催であったが、コロナ感染症対策のため、開催2週間前にオンラインでの開催に変更となった。）。
 - ・日時：2022年2月19日（土）13:30～15:30
 - ・場所：ZOOMオンライン
 - ・参加人数：24名（学生10名、卒業起業家9名、教職員5名）

②他大学のアントレプレナーシップ教育や起業部などの課外活動の調査検証

- ・オンラインによるヒアリング調査のみを行った。ヒアリングは、岡山大学、武蔵野大学、岐阜大学の3大学に実施した。
- 国立大学法人岡山大学
 - ・日時：2021年9月7日 13:00～14:30
 - ・場所：ZOOMオンライン
 - ・ヒアリング先：担当副理事（研究・産学共創担当）
- 国立大学法人 岐阜大学
 - ・日時：2021年8月23日 13:30～15:30
 - ・場所：ZOOMオンライン
 - ・ヒアリング先：担当准教授（起業部顧問）
特任教員（起業部顧問）/事務職員、コーディネーター/起業部副部长（学生）教育学部3年
- 武蔵野大学 アントレプレナーシップ学部（2021年開学）
 - ・日時：2021年7月30日 13:00～14:00
 - ・場所：ZOOMオンライン
 - ・ヒアリング先：学部長/担当特任教授/企画広報担当事務

③起業志望学生との面談予約・カルテシステムの構築

- ・相談情報管理
相談者の情報をカルテとして登録し、スタッフ間で管理・共有する。
カルテには相談者の個人情報、相談内容、相談の際に用いた資料を関連付け、スタッフ間で共有できる。
カルテは相談者の一覧表示、検索機能を付加し、任意の条件で抽出ができる。
- ・相談予約管理
相談・面談の予約をネット経由で行う。担当となる教職員の登録や、面談時間等の管理を行う。

【当初計画段階との対比】※上記目標達成率を判断した理由等

当初計画していたリアルタイムでの実施は全くできなかったが、オンラインベースでは予定していた内容をすべて達成できた。

①学外起業家との交流、特に和歌山県内の企業経営者との交流の場を实践

和歌山市内において、年2回の開催予定であったが、対面形式での開催は学内でのみの開催となった。オンラインで起業家と学生との交流を開催したが、起業家との深いコミュニケーションまではできなかった。一方で、参加した起業家や学生も多数おり関心度が高く、対面形式での開催を望む声があるため次年度以降は対面形式で実施していきたい。

ヒアリングした30名ほどの起業家、幹部、事業家からは、本学におけるアントレプレナーシップ教育への関心は高く、それぞれの専門分野におけるサポートやメンターなど受援体制の整備につながった。

②他大学のアントレプレナーシップ教育や起業部などの課外活動の調査検証

予定していた通り、3大学からのヒアリングは実施できた。

コロナ感染症対策のため訪問が出来ず、課外活動等の具体的な実践法や学生とのヒアリングはあまりできなかった。

③起業志望学生との面談予約・カルテシステムの構築

2022年度からアントレプレナーシップ教育をスタートさせるにあたり、システム整備を行った。今までは指導教員に限られていたが、今後は複数教員や学外ゲストが関わるようになるためである。個別指導も今後は非常に重要となるため、担当教員が相互で情報共有できるように学生カルテシステムの構築を行った。どのような主訴で相談要請があるのかデータを構築し、分析も可能となる

【今後の展望等】

○本事業の発展性

・学生の起業意欲の高まりとともに、第4期中期計画では「毎年1件起業」が数値目標化されている。アントレプレナーシップを醸成するため「アントレプレナーシップ関連科目」として、R4年度「アントレプレナーシップ基礎」「アントレプレナーシップ実践」を開講する。

・2022年1月に設立された一般社団法人和歌山イノベーションベース（W I B）からの支援・連携の申し出があり、R4年度以降における受援体制の強化につながっている。W I Bは、和歌山県内における創業支援、起業家育成を行うための団体で、和歌山県からも支援をうけている。本学からは、産学連携イノベーションセンターの教職員が、学生の起業支援についての連携のため関与している。

○改善すべき事項

・起業家と学生との交流においては、対面形式とオンラインそれぞれに合わせた効果的な交流方法を構築していく必要がある。

○実施成果の教育課程への改革・改善への提案及び今後の予定

・「アントレプレナーシップ関連科目」では、起業家教育のための全体カリキュラムの構築のため、R5年度に「アントレプレナーシップ応用」、「起業インターンシップ科目」の開設を目指し、起業家教育全体カリキュラムの設計を図る。

○その他特筆すべき事項

・「香村賞ビジネスプラン」コンテストにおいて、システム工学部、観光学部の教員および和歌山市内の卒業生起業家（経済51期久保田善文氏）が審査委員を務めた。また、司会進行には学生の起用をすることで、上述の「起業家と学生」の交流とあわせ、学生の起業意欲の高まりに対する学内の受援体制、教育機会の拡充につながっている。

※ 事業内容・成果等がわかるポンチ絵（写真・挿絵など）を作成、添付してください。

提出期限：令和4年2月28日（月）（当該期限までに事業が終了していない場合は、年度末までの見込みで作成、事業終了後に確定版を提出してください。）